



大里農林振興 センターだより

発行 埼玉県大里農林振興センター
熊谷市久保島 1373-1
TEL:048-523-2812 FAX:048-526-2494
E-mail k232812@pref.saitama.lg.jp



第3号

受賞おめでとうございます！！

第7回埼玉農業大賞農業ベンチャー部門大賞

株式会社一心園（深谷市）

株式会社一心園が、埼玉農業大賞ベンチャー部門の大賞を受賞されました。

同社は、「社員が夢を持てる経営」を理念として雇用労力の活用と農地の集積により、大規模

露地野菜経営を実践されています。また、レタスやブロッコリー、スイートコーンなど10品目を組み合わせることで、年間を通して、作業時間が平準化する栽培体系を確立しています。丁寧な農作業等が評価され、毎年、作付規模が拡大しています。

今後も、地域をリードする法人として更なる活躍が期待されます。



表彰式（左から2番目が一心園山崎代表取締役、3番目が山崎取締役）

関東ブロック4Hクラブプロジェクト発表会

「意見発表の部」優秀賞 シュレスタ勝氏（寄居町）

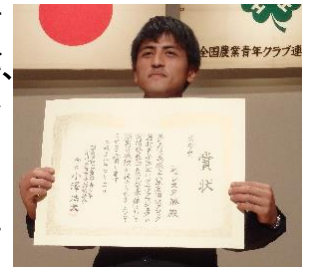
寄居町で新規就農した寄居町4Hクラブのシュレスタ勝氏が、関東ブロック4Hクラブプロジェクト発表会「意見発表の部」の優秀賞を受賞されました。

シュレスタ勝氏は、中学・高校生の頃に寄居町の農場に住み込んで農業の手伝いをした経験から、平成24年6月から2年間、「寄居町明日の農業

担い手育成塾」で研修を受け、就農しました。

現在は、畑122aで年間約50品目の野菜を化学農薬や化学肥料を使わず栽培し、野菜セットの直接配達や宅配便での全国配送、自然食品店への卸売り等を行っています。

発表会では、「夢を叶える直接販売農家を目指して」と題して、就農の経緯や独立就農してからの苦勞、困難を乗り越えた経験、将来に向けての計画や目標など、農業への熱い思いを発表しました。



表彰式

大里地区青年農業者研究大会「プロジェクト発表の部」最優秀賞 ふかや4Hクラブ（深谷市）

平成29年1月20日に、大里地区青年農業者研究大会をKFC（大里地区4Hクラブ連絡協議会）との共催で開催しました。プロジェクト発表の部では、ふかや4Hクラブ（発表者：加藤照雄氏）の「深谷には絶対負けられない戦いがある！！VSねぎ黒腐菌核病」が最優秀賞、熊谷4Hクラブ協議会（発表者：福島健諭氏）の「熊谷4Hクラブ再生プロジェクト」が優秀賞となりました。意見発表の部では、秋山達哉氏（深谷市）の「農業を教えられる側から教える側へ」が最優秀賞、岡田祐一氏（熊谷市）の「新たな担い手を目指すための行動録」が優秀賞となりました。

ふかや4Hクラブ及び秋山氏は埼玉県青年農業者研究大会で、ともに敢闘賞（埼玉県農業研究団体連合会会長賞）を受賞しました。



表彰式（左から1番目がふかや4Hクラブ加藤氏、2番目が秋山氏）

大里農林振興センターのホームページに同じ内容で掲載しております
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0906> 年2回発行（3、9月）

地域指導農家、青年農業経営士に認定されました

平成28年11月9日、さいたま商工会議所会館で平成28年度埼玉県農業・農村リーダー認定証交付式が開催されました。

この日は、県内で地域指導農家14名、青年農業経営士10名の知事認定が行われました。

大里管内では、地域指導農家に深谷市榛沢新田の篠崎勝氏が認定されました。篠崎氏は、ブロッコリー、スイートコーンの大規模経営を行っており、榛沢農協青果物一元出荷協議会の中心的な役割を担っています。

青年農業経営士には熊谷市万吉の久保田康士氏、深谷市普濟寺の今井貴昭氏、深谷市町田の山口泰司氏の3名が認定されました。久保田氏は、施設トマトの直売経営を行っています。今井氏は、施設トマトと露地野菜の複合経営を行っています。山口氏は、ねぎ、キャベツ、スイートコーン等の露地野菜経営を行っています。久保田氏は熊谷4Hクラブ協議会、今井氏、山口氏はふかや4Hクラブで中心的な役割を担っています。

地域指導農家の篠崎氏には、地域農業の指導的役割が、青年農業経営士の3人には、地域の青年農業者のリーダーとしての活躍が期待されます。



篠崎勝氏



久保田康士氏



今井貴昭氏



山口泰司氏

中山間地域活性化講演会が寄居町で開催されました

中山間地域活性化講演会が、2月6日（月）、寄居町で開催されました。

県農業ビジネス支援課が主催したもので『未来を拓く山地酪農』～中山間地域における山地酪農と6次産業化の可能性～と題し、岩手県岩泉町で山地酪農を実践している酪農家・中洞正さんを講師にお迎えしました。

講演会では、耕作放棄地や鳥獣害、少子高齢

化など様々な問題に直面する中山間地域での「山地酪農」と、「乳製品の加工や販売の可能性」について、自らの体験を交えながら熱く語っていただきました。

中洞さんの牧場では、積雪時も含め年間を通して昼夜放牧を行い、搾乳の時には牛が自ら麓に下りてくるという自然な形で飼育し、えさとなる草も自生する芝草とのことです。また、管理が行き届かず荒れた山林も、牛がほとんどの下草を食べることで再生することができ、山林保全にも役立つことなどが示唆されました。

参加者は、県内の中山間地域を有する市町等から、農業関係者だけでなくNPO法人や地域の活性化に関心のある企業など合計で75人もの聴衆となり、関心の高さが伺えました。

参加者からは、とても参考になったとの声とともに、行政に対しては、地域にある資源に付き、その活用を支援してほしいとの声も寄せられました。



特別栽培農産物をご存知ですか？

1 特別栽培農産物とは

「埼玉県特別栽培農産物」とは、化学合成農薬や化学肥料(窒素)を通常よりも半分以下に減らして栽培し、県の認証を受けた環境にやさしい農産物です。

使った農薬やその使用状況が明らかであるため、消費者の方への信頼向上と、環境にやさしい農業の持続的な発展が図られます。

2 特別栽培農産物って、どこで売っているの？

直売所、スーパー等で販売しています。「埼玉県特別栽培農産物」は、埼玉県のマスコット「コバトン」のマークを表示することができます。マークを見つけたら、ごひいきください。

3 特別栽培農産物利用店へ行ってみませんか？

埼玉県特別栽培農産物を使ったメニューをおおむね年間を通じて提供している県内の飲食店を、「埼玉県特別栽培農産物利用店」として県が指定しています。

各利用店では、おいしく食べてもらえるように

工夫を凝らし、埼玉県特別栽培農産物のイメージアップに取り組んでおり、大里農林振興センター管内では、熊谷市内の7店舗が指定されています。

店先や店内に掲げられた県産木材製の看板が利用店の目印となっています。

ぜひ、特別栽培農産物を使ったおいしいお料理を食べてみてください。

利用店リスト：埼玉県農産物安全課HP
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/riyouten-osato.html>



埼玉野菜もりもり大作戦事業のご案内

1 事業概要

埼玉野菜もりもり大作戦事業は、野菜の生産拡大や産出額の増加を支援する県単独事業として平成26年度から5カ年の計画で事業化されました。

2 補助対象

- (1) 生産施設（簡易被覆施設、簡易予冷库等）
- (2) 機械（播種機、定植機等）トラクタ本体は対象外

3 採択要件

- (1) 生産施設整備
作付面積を概ね20%以上拡大もしくは販売額を概ね20%以上増加すること
- (2) 機械整備
作付面積を概ね3ha以上拡大もしくは販売額を概ね20%以上増加すること

4 事業実施主体

- (1) 農業法人（受益農業者1戸以上）
- (2) その他農業者の組織する団体（受益農業者3戸以上）

5 補助率

事業費の2分の1以内

6 その他

(1) 実施状況

管内では平成26年度に7事業主体、平成27、28年度にそれぞれ4事業主体ずつ実施しました。

導入機械として一番多いのは「ねぎ収穫機」(7台)でした。

事業に取り組んだ農業者の方々は機械や施設を導入したことで省力化が図れ、作付面積や販売額を順調に伸ばしています。

(2) 事業の募集

例年、年度始めに市町に窓口になっていたいで募集しています。

詳しくは下記までお問合せください。
 (管理部地域支援担当
 TEL：048-523-2812)

大里地域で問題となっている水稻の病害虫について

1 稲こうじ病

稲こうじ病は、平成28年産水稻に発生が多く見られました。本病は、出穂後の籾に発生し、収穫物の品質低下を招き、発生が多いと規格外扱いとなるため経済的に大きな影響をもたらします。

発病した籾には、黄緑色から暗緑色の丸い塊ができるので見つけることができます。

穂ばらみ期から開花期に雨が多いと多発するので、前年に発生したほ場や多発生が想定されるほ場では、散布剤は、出穂10～20日前、粒剤は出穂2～3週間前に散布します。

柔らかい植物や枯死した植物を好んで食べるため、4葉期までのイネに被害を与え、多発すると減収する場合があります。

貝の大きさは、ふ化して1年目は1～3cm程度、2年目は5cm以上となります。対策として、田植期以降は、薬剤により水田内の害虫の密度を下げます。また、用水路の壁面や水稻にピンク色の卵塊を見つけたら、除去しましょう。



稲こうじ病



ジャンボタニシの卵塊

2 スクミリングガイ（ジャンボタニシ）

本種は、移植直後のイネを集中して食害するほか、湛水直播栽培では出芽後の幼植物を次々に食害します。大里地域では発生地域がまだ限定的ですが、いったん定着すると常発化するため、計画的な防除が必要です。

新たな土壌消毒技術（低濃度エタノール土壌還元消毒）について

施設栽培における土壌病害虫対策として、従来からフスマ等を利用した土壌還元消毒がりましたが、フスマの代わりに1%程度のエタノールをかん水しながら土中に浸透させる新たな技術が開発されました。現在、各県で試験が進み、きゅうりのネコブセンチュウやトマト褐色根腐病等の抑制効果が確認されています。

【技術の特徴】

- ①土中深くまで処理できる
- ②湛水しなくてよい
- ③事前準備に手間がかかる
- ④経費がかかる（エタノール、被覆・密閉用資材等）
- ⑤夏期の実施が効果的である



手順1 灌水チューブの設置



手順2 農ポリによる被覆



手順3 水枕で周囲を密閉



手順4 エタノールを投入



手順5 被覆期間(20～30日間)

- ◇平成27年度から管内でも施設トマトハウスで取組が始まり、ネコブセンチュウや萎凋病等で抑制効果が確認されています。
- ◇興味のある方は、農林振興センターまでお問い合わせください。

適切な栽培管理で高品質な花き生産を！

1 これからの切り花作業について

春の彼岸出荷もほぼ終わりとなり、ようやく切り花の本格的な作業時期となってきました。

昨年秋に定植した露地のコギクは、早生の品種を中心に冬至芽が伸び始めたところで、これから芽整理など、必要本数の確保に向けた作業が始まります。

また、アスターやケイトウなどは種も始まります。保温や水分管理などに注意して健苗の育成に努めて下さい。

2 害虫対策について

暖かくなり、花き類の旺盛な生育に合わせて、害虫の動きも活発化します。近年では、春先からアザミウマ類やアブラムシ類が多発し、切り

花の品質に大きな影響を与える事例が報告されています。

ほ場や苗の管理をていねいに行い、適切な薬剤散布や防虫ネットの活用など、時期を逃さないように実施する必要があります。

特に、アザミウマ類の被害がここ数年深刻化しており、なかでもミカンキイロアザミウマは、葉や花の表面を吸汁することから、葉の萎縮や奇形を引き起こし、商品価値を著しく低下させます。ほ場周辺の雑草や残花の処理を徹底し、飛び込みなどによる被害軽減を図りましょう。

薬剤防除の際は、異なる作用を持つ薬剤のローテーション散布を行います（表参照）。

表 ミカンキイロアザミウマ・アザミウマ類防除薬剤（例） （2019年2月8日現在の登録状況）

IRAC	薬剤名	系統名	害虫名	作物名	IRAC	薬剤名	系統名	害虫名	作物名
1B	ジェイエース水溶剤	有機リン	アザミウマ類	花き類	6	アファーム乳剤	マクロライド	ミカンキイロアザミウマ	花き類
2B	プリンスフロアブル	フェニルピラゾール	アザミウマ類	きく	13	コテツフロアブル	その他	ミカンキイロアザミウマ	きく
3A	アデント水和剤	ヒスロイド	ミカンキイロアザミウマ	きく	15	カウンター乳剤	IGR	アザミウマ類	きく
4A	アトマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド	アザミウマ類	きく		カスケード乳剤		ミカンキイロアザミウマ	
	ベストガード水溶剤		アザミウマ類		21A	ハチハチ乳剤	その他	アザミウマ類	きく
	ダントツ水溶剤		アザミウマ類	花き類	農薬を使用する際は、希釈倍率や使用方法などをラベルで確認してください。				
5	スピノース顆粒水和剤	スピノシン	アザミウマ類	きく					

作付転換は飼料用米で（国産飼料生産の拡大を）

1 主食用米からの作付転換が容易な飼料用米

飼料用米は主食用米からの作付転換が比較的容易であることに加え、畜産業にとっては国産飼料による安定的な畜産経営に結びつくことから、本作化と一層の飼料用米生産・利用の拡大が求められています。

家畜にとって、玄米の栄養価（TDN）はトウモロコシとほぼ同等で、脂肪酸の含有量の面でトウモロコシと比べオレイン酸が多く、リノール酸が少ないという特性があり、豚肉の肉質の向上等の面からも注目されています。

飼料用米は畜種によって利用方法が異なります。牛や豚に給与する場合は消化性を向上させるために破碎や蒸気圧ペン等の加工処理が必要になりますが、鶏については砂嚢があるため粃米をそのまま給与することができます。

最近では、破碎した粃米に水と乳酸菌を添加

して密封し、発酵させて牛に給与するソフトグレインサイレージ（SGS）での利用が注目されています。

2 飼料用米の生産・供給は地域連携で

飼料用米の安定的な生産・利用を図るには、配合飼料の主原料であるトウモロコシと比較して安価での流通や、長期的、計画的な生産・供給等の取組が課題となります。

飼料用米の生産量の確保、集荷、保管、流通方法等の検討や施設整備も課題です。これらの課題解決には、耕種農家と畜産農家による地域での連携が重要となります。

管内では、飼料用米を利用する畜産農家の堆肥を、主穀農家が施用して飼料用米を栽培し供給するといった地域連携の取組も始まっています。地域連携による飼料用米生産を希望される方は御相談ください。

今こそ農業経営の法人化を！

1 法人化を進めた動機は

- ・後継者や若い人への経営継承を考えている。
- ・経営規模、販路の拡大を予定している。
- ・雇用労力を活用したい。
- ・営農組合等、いわゆる任意組合の経理を明瞭化したい。

2 法人経営への流れ

- ①「なぜ法人化するか」、法人化により「いつ、何を、どのように変えるのか」等、具体的なビジョンを構成員が納得するまで話し合う。
- ②法人の形態、経営方針、事業・収支計画、資産の継承等、法人の骨格を決める。
- ③定款の作成、農地の権利取得等、法的な手続きを進める。

3 法人化のメリット

- ・経営者の意識改革が促進される。
- ・信用力の向上。
- ・社会保険の充実により有能な人材が確保される。

- ・制度資金融資枠の拡大。
- ・固定資産の安定的な継承。
- ・営農組合では、将来的な機械購入費を農業経営基盤強化準備金（＝法人の損金）として積み立てることができる。
- ・家族経営の場合は、経営と家計が分離され経営主、法人で働くものには報酬、給与が支払われる。

4 農林振興センターの支援体制

センターでは、意欲ある担い手の経営発展を支援するため、法人化相談窓口を設置して経営・税務・各種手続きのスペシャリスト（税理士、社会保険労務士、弁理士等）による個別相談を行っています。

今、あなた自身が頭の中で描いている構想を個別相談を通し、具体化してみませんか。個別相談（90分）は無料です。農業支援部新規就農・法人化担当に、お気軽に御相談ください。

埼玉農業女子 ビジネスプラン発表会&交流会

埼玉県では、女性農業者の活躍を支援しており、平成28年度から「農業版ウーマノミクス事業」を実施しています。事業により実施された「農業女子キャリアアップ講座」には管内の女性農業者5人を含む25人が参加し、視察研修と個別研修を併せて計10回の研修を受け、商品開発、マーケティング、経営戦略等について学びました。平成29年1月11日には講座の最終段階となる「埼玉農業女子 ビジネスプラン発表会&交流会」が、大宮ソニックシティホールで開催されました。

発表会では、受講者が講座を通して作成した自らのビジネスプランを発表し、出席した県内企業等に事業連携をPRしました。



発表する女性農業者

また、交流会ではそれぞれのビジネスプランに関心のある企業等と活発に交流し、意見交換等を行いました。

「農業版ウーマノミクス事業」では、「農業女子キャリアアップ講座」の他にも、次のような支援を行っています。



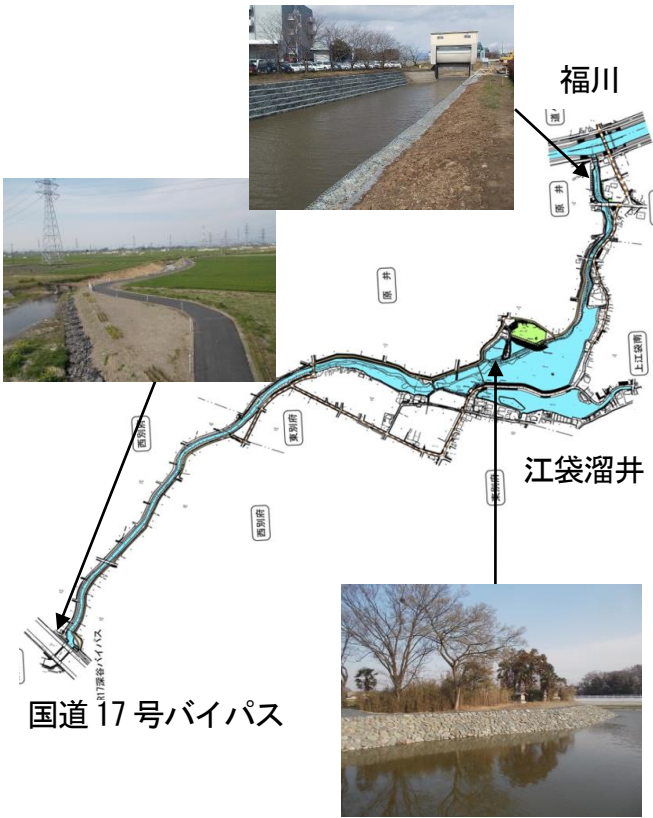
活発に交流する女性農業者

- ①「女性の視点を生かした商品開発支援事業」
女性農業者が県内の企業等と連携して行う商品開発や販路開拓を支援します。
- ②「企業派遣研修事業」
県内の企業等の持つノウハウや技術等を習得し、自らのビジネスプランを実現しようとする女性農業者の企業への派遣研修を支援します。関心のある方は、お問い合わせください。

「川のまるごと再生プロジェクト」が完了しました

「川のまるごと再生プロジェクト」について
 県内7か所の農業用水、10か所の河川で実施されました。
 各地区ごとに川の再生のテーマを定めて市・町の街づくりと連携して水辺を整備する取組です。
 大里農林振興センターでは、『江袋溜井・福川地区』（熊谷市）で実施しました。
 本地区のテーマは「水辺空間・田園と文化遺産の縁むすび」となっており、プロジェクトにおいて遊歩道、環境護岸、多目的広場などを整備しました。
 近隣には、別府沼公園、妻沼物産センターなどもあります。天気の良い日に散歩などいかがですか。

- 実施期間：平成24年度～27年度
- 総事業費：269,000千円
- 遊歩道延長：1.6km
- 環境護岸延長：0.8km
- 多目的広場：1箇所



地域の皆さんで農地や水路を守りませんか？

多面的機能支払交付金の概要について
 農業・農村には、県土の保全や洪水防止、自然環境の保全、景観形成等の様々な働き（多面的機能）があります。
 しかし、近年の農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。
 このため、これらの解決手段の一つとして、地域の皆さんが行う農地保全のための水路の草刈り・泥上げの活動等及び施設の軽微な補修・植栽活動等に対し、活動面積に応じた金額が交付される「多面的機能支払交付金」制度が始まりました。
 この交付金を活用して地域の皆さんと一緒に農地や水路を守っていきませんか。



水路の除草活動の様子



ひまわりの植栽活動

- 【平成28年度管内実施状況】**
- 活動組織数：83組織
 （熊谷市44組織、深谷市33組織、寄居町6組織）
 - 活動面積：4,883ha

六堰頭首工を見学してみよう！

「あの橋にある小屋のようなものは何？」

●六堰頭首工には秘密がたくさん

六堰頭首工（ろくせきとうしゅこう）は、荒川の水をゲートで堰上げ、農業用水を取水する施設です。冒頭の疑問にある小屋のようなものは、川を堰止めるゲートを持ち上げる機械の操作室（巻揚機械室）です。

ここには他にも秘密があります。

●江戸時代からあった？

六堰頭首工の元となった奈良堰は、1602年に作られたといわれています。江戸時代が始まったのが1603年ですから、とても長い歴史があることが分かります。

●取水ゲートはどこ？

一見、どこが農業用水の取水口なのかわからない六堰頭首工。実は取水口は【写真2】の赤い部分なのです。取水ゲートは赤いレンガの建物の地下にあります。ですから普段は見る事ができないのです。

●六堰頭首工を見学してみよう

六堰頭首工にはまだまだご紹介しきれない秘密があります。一度見に来て確かめてみませんか？

六堰頭首工では、随時見学希望を受け付けています。事前にご連絡いただくと、職員による案内が可能です。県外からも多くの見学者が訪れています。是非、管理所までご連絡ください。

なお、管理所の敷地内は終日見学自由です。

●農業を身近に感じて

熊谷市内の小学校では、六堰頭首工が社会科の郷土学習に採用されていて、毎年初夏や秋頃には年間1,000人近い小学生が見学に訪れます【写真1、3】。

地域の用水を管理する施設を間近に見て、農業と水の大切さが身近に感じられます。

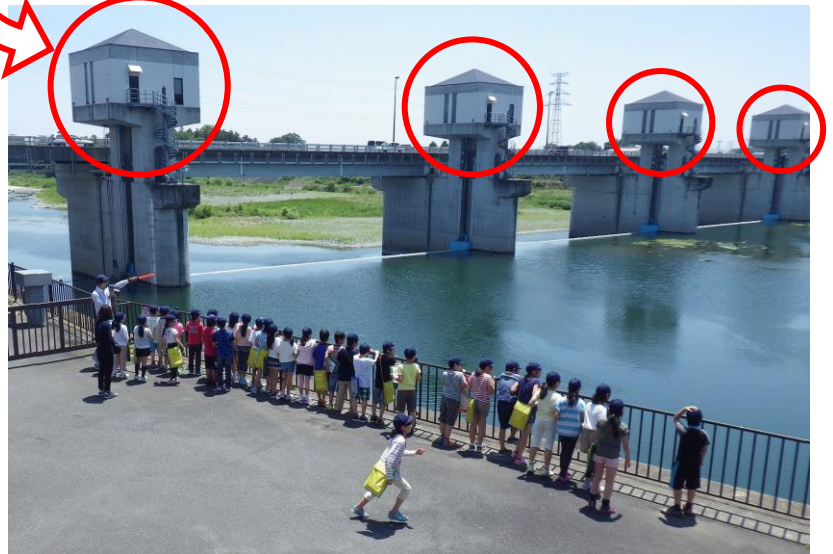


写真1 六堰頭首工と見学に来た小学生



写真2 赤い部分が取水口



写真3 ローリングゲートに見入る小学生



見学に来た小学生から、後日お礼の手紙文集が届きました。
「旧六堰は人の手で掘って作ってすごい」
「職員が4人しかいないことに驚きました」
といった感想が印象的でした。

見学等のお問い合わせは 六堰頭首工管理所 まで
住所 深谷市永田3-5
TEL 048-579-2640 FAX 048-579-2647
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0906/rokuseki/>